

第2回 男鹿市総合計画策定協議会

日 時：令和7年9月19日（金）15時～

場 所：男鹿市役所3階 第一会議室

一 次第一

1 開 会

2 挨 捶

3 案 件

- (1) 第1回総合計画策定協議会で出された意見の次期総合計画へのフィードバック状況について
- (2) 男鹿市総合計画の全体構成について
- (3) 総合計画の基本構想・計画の概要について
- (4) 総合計画の3つの重点戦略について
- (5)「5つのまちづくり」における各取組事項について

4 その他の事項

5 閉 会

—第2回男鹿市総合計画策定協議会議事録—

1 開会

■ 事務局(進行)

本日は、お忙しい中お集まり頂き、誠にありがとうございます。

それでは、ただ今より、第2回男鹿市総合計画策定協議会を開会いたします。

机上へ出席者名簿を配布させていただいております。皆様どうぞよろしくお願ひします。

市長も本日出席の予定でありましたが、急遽、知事と一緒に国への要望活動が入り、上京したため欠席となっております。

また、本日の審議内容等については議事録を作成し、ホームページで公開をさせていただきたいと考えております。議事録作成のため会議内容については録音させていただきますのでご了承願います。

それでは、次第に従いまして進めてまいります。

次第の2「あいさつ」について、会長よりご挨拶をお願いいたします。

2 挨拶

■ 会長

皆様、本日は公私共にご多忙のところ、第2回男鹿市総合計画策定協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の案件は、総合計画の「全体の構成」、「重点戦略の内容」、「具体的な各取組事項」等になっておりますので、委員の皆様からは、それぞれの立場から、活発なご発言をお願いできればと存じます。よろしくお願ひいたします。

■ 事務局(進行)

会長、ありがとうございました。

それでは、ここからの進行は、会長にお願いいたします。

3 案件

■ 会長

それでは案件に入ります。

今回は案件が5つありますが、案件の内容が総合計画の「構成」や「具体的な取組事項」等となっており、すべての案件の関連性が高いことから、まとめて説明した方が理解しやすいと思いますので、案件(1)～(5)までを一括して事務局から説明をお願いします。

■ 事務局(担当)

資料2「男鹿市総合計画の全体構成について」

資料3「総合計画の基本構想・計画の概要について」

資料4「総合計画の3つの重点戦略について」

資料5「「5つのまちづくり」における各取組事項について」

資料1「第1回総合計画策定協議会で出された意見の次期総合計画への
フィードバック状況について」説明

■ 会長

案件(1)~(5)について事務局から一括して説明がありましたが、質疑に関しては案件(2)~(4)【総合計画の構成・概要・重点戦略】と案件(5)の【まちづくりの各取組事項について】に分けて進めたいと思います。

最初に案件(2)~(4)【総合計画の構成・概要・重点戦略】について質問や意見がありましたらお願ひします。発言の際は、挙手のうえご発言お願ひします。

■ 委員

【まちづくり2】の名称「半島防災に向けた安全・安心なまちづくり」の「半島防災」というワードについて、市役所内の会議の際はネガティブなイメージがあり心配だという声があつたとのことです。私としては、防災は普段から意識し気を付けなければいけないことであり、まちづくりの名称として前面に出ていれば意識も高まるので、この名称で良いと感じます。

■ 委員

私もこの「半島防災」のワードを使用することはいいと思います。

■ 委員

私もこの名称で問題ないと思います。この【まちづくり1】以外のまちづくりの名称も、それが取組内容をイメージし易く、工夫が見られるので、この内容で良いと思います。

■ 会長

私も皆さんと同じで「半島防災」という言葉を使うのはいいと思います。この【まちづくり2】の中には、人口減少・人口が少なくなても安全・安心に過ごすための社会基盤は適切に維持していくかいけないという部門も含んでいますが、そのことは「半島防災に向けた安全・安心なまちづくり」の後半の部分で表現していると考えれば、この名称に納得できると思います。防災のワードが最初に来れば、それだけが強調されていると思われがちだが、それだけではなく人口減少社会においても市民が安全・安心に暮らすための生活基盤の整備をしっかり進めていくということだろうと思います。

■ 委員

防災の表記をひらがなするなどの工夫をしてやわらかなイメージにするとかの方法もあるが、それだと危機感が薄まってしまう。

■ 会長

当局からは【まちづくり5】の「市民と共に創する持続可能なまちづくり」の共創という言葉

が分かりづらいのではないかという心配もありましたがこれに意見はありますか。

前回の会議では、「市民と築く」の表現でしたが、私としては今回の「市民と共に創する」の表現の方がかっこいいと感じます。

■ 委員

半島防災という表現に関しては、これは当然「男鹿の計画」を策定する以上、これは肝になるポイントなので、当然使うべき言葉であると感じます。もし、男鹿が地震に見舞われてしまった場合は、一番心配されるのは孤立です。道路網で男鹿に秋田から入る場合も、能代から入る場合も、この2路線が断絶してしまうと孤立してしまいます。

そこも含めて安全・安心なまちづくりのためには、この防災という観点がとても重要で、大雨だったり、地震だったりという天災に対して、市民が安心して、孤立せず、生活できるようにするために、総合計画の重要な柱として建てるべきだと思います。

また、子育て環境日本一への取組という記述に対しては、当然日本一を目指すということだと思いますが、何をもって日本一とするのか、どのレベルになれば日本一なのか、我々にとってはその具体性が分かりづらい、意気込みは感じるが、どの水準を日本一に設定しているのか、もしあれば事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

■ 当局

子育て環境日本一に関してですが、ここ最近当市のめざすものとして設定しており、日本一とはどのような状態のこと指すのかという質問を議会等でもたびたび指摘されています。

子育てのための施策を一つ一つ見れば、当然規模の小さい自治体であるので限界はありますが、まずは男鹿に住んでいる人が、安心して子どもを育てることが出来る環境をつくり、子育て世代の満足度を上げることを目標としています。そこを目指していることから日本一という表現を使っていますが、どの水準まで達成したら日本一とか具体的な設定をしているわけではないということをご理解願います。

■ 委員

子育て関係の取組についてですが、10月からおむつ無償化の事業も始まります。この取組に関してはとても評判がいいです。この取組は県内でも初だと伺っています、男鹿市の子育て支援への意気込みを感じるし、もっとアピールすべきだと感じています。子育て環境日本一への取組は、どんどん進めていくべきだと思っています。

■ 会長

具体的な指標として日本一を設定しているわけではないが、考え方というか目標として、子育て世代の満足度を上げ日本一を目指していく、子育て環境の良さをアピールしていくということだと思います。

■ 委員

農林水産業の振興に関してですが、農業・水産業に関しては、手厚い取組がたくさん記載されていますが、林業に関しての記述のボリュームが足りなく感じます。今後の林業の振興に関して、市としてどのように考えているのか伺いたいと思います。

■ 当局

委員ご指摘のとおり、農業に関してはかなり充実した取組を記載しております。水産業に關しても新たな取組など増やしてございます。林業に関しては景観や林を整備することで、川から海への環境の整備につながることでもあり、林業の振興が農業や水産業の振興にもつながることでもありますので、林業の振興も重要と考えています。

今年から県の OB で林業の施策に詳しい方を林業専門員として雇用しており、当市の林業施策に対してさまざまな意見を頂いております。今後は、林の整備や松くい虫対策、これまで整備しきれていなかった部分の林業対策等をすすめていきたいと考えています。

■ 会長

市の産業別の生産額では農林水産業が一番高いのでしょうか。男鹿といえば観光業のイメージですが、【まちづくり 1】の中での取組の順番は、農林水産業・観光業・商業となっていますが生産額もこの順番なのでしょうか。

■ 副市長

市町村の産業の力というものは、意外とサービス業や建設業の割合が大きくて、農業は割合としては小さいものとなっています。生産額の大小にかかわらず、農業というものは裾野が広いといいますか、観光や地域コミュニティの維持に深く関わっているということで、男鹿の地域を維持していくためのベースとなる産業であると考えています。全部の産業が大切ですので、こちらとしては、こっちの産業が 1 番で、こっちが 2 番という順番付けはしておりません。

林業については、男鹿市においては素材生産する方が多くないものですから、そういった点で少し手薄になっている感は否めないと思います。たしかに、このページでは林業、水産業で5つ施策があるうち、林業が1つで水産業が4つというのはバランスが悪いので、そこは今後調整していきます。森林環境税をいただいてこれから施策をすすめていかなければならぬこともあります。ナラ枯れ、マツ枯れの状態も悪化している中で、環境という観点からも力を入れて取り組んでいかなければと考えています。このバランスでは男鹿市は林業を軽視していると思われても困りますので、ブルーカーボンはもちろんですが、林業ではカーボンクレジットの取組もすすめていきます。それらの点も含めて、林業に関する記載はもう少し増やします。

■ 会長

基本理念や重点戦略に関してはどのように思われますか。

■ 副市長

当局として気になっているのは、基本理念の「人口減少時代でも 元気に心豊かに暮らす なまはげの里」の中の「人口減少時代でも」という部分「でも」という言葉は否定的であり、理屈っぽいといいますか、言い訳のように感じるのではないかと危惧しています。

■ 委員

最初に否定から入ってしまって、「それを跳ね返しましょう」という、言っている意味や、

言いたい事は理解できるが、表現として改善するべきだと思います。最初のイメージが後ろ向きになってしまっていて、強調の「でも」になっていると感じます。

みなさんで相談して表現の変更を検討するべきだと思います。

■ 委員

例えばアプリのCMでは、通常「18歳未満の方はご利用できません」という表現を「19歳以上はご利用できます」という否定ではなく、前向きな表現を使用している例もあります。この例と同じように、逆説的な表現にすることでマイナスのイメージを変換できないかと思います。

■ 委員

問題意識として強調していることは、よく理解できます。なぜこの計画を立てているのか、今がどのような環境にあるのかということを「人口減少時代でも」という表現で理解しやすいと感じます。この人口減少時代というポイントに問題意識があって、これに対応するためにこの計画を策定するということが分かりやすいと思います。この表現自体を消す必要はないと思いますが、否定から入るのが良くないとすれば、肯定的な意味で表現を変える方法もあると思います。

■ 委員

これに関しては言っていることは正しくて、内容に関しては全員同意できると思います。

■ 副市長

「人口減少時代に対応した」という表現であれば否定的でもなくマイナスイメージもなく人口減少時代を受け入れたうえで頑張るという意味になるが、「元気に心豊かに暮らす」へのつながりが悪い。もう少し工夫が必要に感じる。

■ 委員

例えば「人口減少時代を跳ね返す」とか、そういう表現がいいと思いますが、今この場ですぐいい案は浮かびません。人口減少を逆手に取ってという表現になってくると思います。

■ 委員

人口減少していくからこそ市民一人ひとりが大事になってくるという価値観だと思います。だからこそ、若者だけでなく挑戦する人を全員応援していくということだと思います。そういうニュアンスを入れられればと思います。「一人ひとりが大事」ということ。

■ 委員

逆にこの部分「人口減少時代でも」というワードをばっさり削除したらどうでしょう。

■ 委員

そうなると焦点がぼやけるというか。ただ元気にがんばろうになってしまふ。

■ 副市長

人口減少は全国の市町村の共通した課題ですが、秋田県はそのトップランナーを走っており、その中でも男鹿市の状況は進んでいる状況です。だからこそ、人口減少というワードを全く無くしまって、従来どおりの希望に満ちたふるさとをつくりましょうという計画ではなく、市民のみなさんと覚悟をもってがんばっていくということをメッセージとして伝えたいと

考えています。このことから「人口減少時代」という言葉は使いたいと思っています。できるだけ、この理念も重点戦略もまちづくりも、男鹿らしさを前面に出したい。この総合計画が出来たときに、これは男鹿の総合計画だなどすぐにわかるようなもの、〇〇県の〇〇市や〇〇県の〇〇町の総合計画などこの自治体の総合計画でもあてはまるような内容にはしたくないと思っています。そういう意味でも「半島防災」というワードには、委員の皆様からも賛同を得られて安心しているところであります。全体を網羅しなくても尖った表現・男鹿らしい表現で作っていきたいと考えています。

■ 会長

「人口減少時代でも」というワード、この件に関しては今すぐいい案は浮かばないので今後みなさんで考えてみましょう。

■ 委員

いま副市長のお話にもありましたが、この計画はあくまで男鹿市の計画であります。他の自治体でもほとんどの自治体で総合計画を作っています。私もネット等で検索して調べてみましたけど、これには、「なまはげの里」という記述があるからすぐ男鹿の計画ということは分かりますが、中身に関しても、もっと男鹿らしさを出していくべきだと思います。男鹿の地域特性や住民特性をもう少し反映させていくべきではないかと思います。そして市民がこの内容を確認してこれに向けてがんばろうという気持ちになって、この計画の方向性や目標を自分事ととらえて、みんなが目標の達成に向けてがんばろうと、男鹿らしさや誇りの部分を計画の全体に出ていければなと感じています。重要戦略とまちづくりも一見それぞれの取組に見えて、それが密接に関係している。産業力の強化や子育て環境、防災力の強化が人口減少の対策として関係しているし、男鹿市は防災対策しっかりしているから移住しようと考る人も増えると思います。これがトータルのパッケージとして複合的に取り組むというところをもう少し表現できればと思います。縦割りの行政ではなくて、市としても共通意識をもって連携して取り組んでいくという部分をもう少し強調すればいいのではないかと感じました。

■ 委員

先日、船川港に飛鳥Ⅲが来港しましたが、平日で残念でした。一般の市民の方ももっと見たいと思う人がいたのではないかと感じました。

■ 当局

今回日程が平日となりましたが、クルーズ船の場合、日程は船のクルーズ日程に沿ったもので、寄港地側でこの日程にしてくださいとリクエストするのはなかなか難しいことです。今回飛鳥Ⅲの入港は東北の日本海側では初めての入港でした。クルーズ船に興味を持っている人はたくさんいまして、今回日程的に休日であれば、もっとたくさんの人にご覧いただけたのにと残念に思っている部分もあります。ただ、今回は平日にも関わらず、入港から夜の出港まで、多くの人が来場しました。夜には、初来港に対して地元からお祝いの意味も込めて花火の打ち上げも実施しました。花火目当ての方もかなり大勢いました。船内見学は出来ない船ですので、こちらとしても集客という面で心配しておりましたが、たくさん

お集りいただき安心しました。ぜひ次回は休日に来港いただければと思っています。

■ 委員

当日私は、家族の病院の付き添いで船川おりましたが、病室から立派な船が間近に見えて、夜には花火も見ることが出来よい経験でした。オガーレでもイベントが開催され盛り上がっているようでした。

■ 当局

オガーレの方でも通常時より営業時間を延長して対応しておりました。

■ 会長

それでは、次に案件5の各取組事項の内容の質疑に入りたいと思います。

なにか意見等ありますか。

■ 委員

安全・安心のまちづくりの中で、今、市民が心配していることで熊に関することがあると思います。熊に関することで安全・安心の取組はどうなっていますか。

■ 当局

熊に関する事についてですが、項目としては1-1「農林水産業の振興」の取組の中にはあります。名称としては「鳥獣被害対策の推進」の中で熊対策に取り組みます。

最近では、船川、脇本、船越などの市街地でも熊の出没が頻発しています。このことに対して心配に感じている市民も多いと思います。現状ではまだ日常的に市街地へ出没しているわけではないため、農業被害の防止という観点からこの位置付けとなっています。今月から法律の改正により、生命の危険が迫っている場合は、市街地においても猟銃の使用による駆除が可能となりました。このことも含めて猟友会と対策をすすめています。

■ 委員

県では狩猟免許や猟銃の購入に対して補助制度もありますが、市ではどうなっていますか。

■ 当局

市においても県と協調して、新規に狩猟免許の取得や猟銃の購入に対して補助をしております。詳しい話は農林水産課の方へご相談いただければと思いますのでよろしくお願ひいたします。

■ 副市長

今、安全安心のところに熊対策が見当たらないとご指摘がありました。たしかに鳥獣被害の防止という観点では農林水産業の振興に該当しており、目撃情報等が寄せられた場合は、警察や消防、猟友会とともに警戒にあたりますが、たしかにこの取組が「安全・安心のまちづくり」の中には市民の方にとって分かりづらいと思います。熊の農産物に対する被害もありますが、それよりも市民の日常生活を脅かしている現状があります。再掲でもいいので安全・安心のまちづくりの中へ入れます。併せて、我々が今、安全安心と言った場合、従来では「災害」「地震」「土砂崩れ」「津波」「台風」とありました。が「熊」に関しては重要度が増している、また、高齢者が多くなりますと、高温による「熱中症」が大事にな

ってきますので、当然男鹿市では新たな「安全・安心」に繋がる取組として、この市民の安全安心の取組の中に組み込んでまいりたいと考えています。自分の所管している分野に記載するだけでなく、全体の構成を確認したときに、どこにその取組を入れるべきなのか考えて、もう一度配置・構成を考えます。

■ 委員

5つのまちづくりの中に、防災の取組は多くあるが、防犯の取組が見当たりません。防犯に関しては5つのまちづくりのどこに位置付けられているのか教えてください。

■ 当局

今回の総合計画には、取組事項として「防犯」に関しての記載はありませんが、先ほどの安全・安心の取組として「特殊詐欺被害」は市としても注意喚起しています。被害が続いているので、警察や関連団体と協力しながら、対策をすすめてまいります。現段階の総合計画には取組内容を入れ込めていない状況なので、今後防犯の取組についても記載していきます。

■ 委員

大雨や川の水害などが増える中で、河川への防犯カメラを設置している例が県内でもあるようですが、男鹿市では河川へのカメラの設置状況はどうなっていますか。経費のかかることではありますが、状況をリアルタイムで確認することもでき、市民の安全・安心につながるのではないかと思います。

■ 委員

大雨の際に、インターネット上の定点カメラで状況確認をするときもありますが、男鹿市のカメラはネット上では見つけられませんでした。

■ 当局

本市においても氾濫の恐れがある河川に今後カメラの設置を検討しております。

■ 会長

県では河川情報システムで監視しています。そのシステムでは男鹿市の比詰川も確認できるものとなっています。

■ 副市長

男鹿市の場合においては、河川から海までの距離が短いので、カメラを設置するような箇所は少なくなっています。河川の氾濫より土砂崩れの危険性が高いためです。ただ一昨年は比詰川も氾濫し被害を受けたことから、河川の改修工事も進めていますし、河川の水位をリアルタイムで確認できるシステムの導入を進めています。国土交通省のシステムは本当に危険な箇所にだけ整備されるものとなっています。

■ 委員

男鹿市の熊に関する情報発信は、迅速に更新され、マップ等で出没場所を示すなど分かりやすくていいと感じています。ただ、それを見ることが出来る人はいいのですが、見ることができない高齢者等に対する支援も必要だと思います。皆さん自分の身の安全に直結することなので関心が高いです。スマホなどを使っていない高齢者からは私の方へ熊情報

の確認にきます。

■ 当局

基本的な熊対策としては、県のシステムですがクマダスというサイト・システムで全県的な熊出没情報を集約して注意喚起をしています。

■ 副市長

市では高齢者に対するスマホ購入補助やスマホの使い方講習を手厚く実施していますので、それを活用して皆さんに情報を届けられるようにしたいと考えています。高齢者の方こそスマホを活用して、元気にいきいきと暮らしていただきたいと思っています。

■ 委員

船越こども園の園長に関して昨年公募して決定した経緯があると思いますが、大変良かったと感じています。当初は、保育関係の方ではなく、保育に関して知識や経験もあまりないと思われたので心配しましたが、とてもよくがんばっておられると評判もいいです。

もうひとつ、総合計画で取り組んで欲しいことは、「男性の育児・家事への積極的な参加」です。表現の方法となりますと、男鹿市の男性には「参加」ではなく「主体的な家事の実施」をして欲しいと思います。「子育て環境日本一」を目指すなら、施設や制度の整備だけではなく、そのような意識の転換も重要だと思います。現状では家事・育児の負担は女性に多くかかっていると感じていますので、男性も「家事への参加」や「家事を手伝う」という意識ではなく、主体的に女性と男性が分担して家事へ取り組む環境作りというものが必要だと思います。

■ 教育長

まず、船越こども園の園長は公募で決定しました。保育園・幼稚園の経験はありませんが、教育関係で経験豊富な方で、船川第一小学校の校長時代は、船川保育園との連携に関してうまくやっていただきました。船越こども園に関しては、ほかのスタッフも経験豊富で大変良いチームワークで運営されています。

男性の育児・家事への参加という観点では、自分の反省も含めてまだ十分ではないと思っています。保育園の送迎などでは、父親による送迎も意外と多いなど感じている部分もありますが、このあとも研修会やイベントの機会等を利用して男性の家事への参加を啓発していく必要があると感じています。

■ 当局

総合計画の内容にも「男女共同参画社会の推進」ということで取組内容が記載されていますが、内容が教科書どおりの内容と言いますか、委員がご指摘のような点に結びついていない部分もありますので、この点は表現方法を工夫するなどして男性の家事への参加ということも含めて検討してまいります。

■ 副市長

資料4の方へ重点戦略として人口減少に対する取組がまとめられており、これまでいろいろな人口減少対策に取り組んできましたが、なかなか効果が出ていない状況を記載した箇所があります。人口減少にはいろいろな要因が絡み合って進んでいる状況ですが、地方

といわれるところ、本市、本県は特に、人口減少のひとつの理由として、性別や年齢によって知らないうちに役割を決めてしまっている、最近ではアンコンシャスバイアスという「決めつけ」や「閉鎖的な雰囲気」を作ってしまっているという状況もあると思います。そういうこともありますので、この計画にはその点も記載して、社会も意識も変わっていかなければならぬと思います。移住者や若い人の子育ての環境にも関わってくるところで、市としても意識してそのような点にも注意していきたいと考えています。

■ 委員

コミュニティスクールに関してですが、東中の生徒では将来男鹿に残りたい、男鹿で暮らしたい、働きたいという生徒は2割程度でした。やはり都会に憧れることがあると思います。将来、盆踊りやナマハゲ行事等の地域の行事を存続していけるのかという心配があります。このことは人口減少や高齢化等いろいろなことに関係してきています。ちょっと話がずれますが、私の知り合いがデンマークでなまはげ活動をしている方がいます。その方はナマハゲをとおしてデンマークと男鹿市が交流できればと考えています。

■ 教育長

委員ご指摘の郷土への愛着を育む教育に関してですが、学力の向上はもちろん大切ですが、郷土愛を育む教育も同じくらい大切だと考えています。大きな意味では地域づくりと人口減少にどう対応するかということ、子ども達が地域の方と一緒に取り組む、地域の課題をどう解決するか子どもたちが考えてどのように解決策を導けるか、という取組を始めています。この教育によって生徒たちの考え方が変わってきています。自分がいろいろな人に支えられてここで生活していて、その地域を良くするための取組をしたいと考える生徒が大変増えています。このようなことから、今後もこのふるさとキャリア教育をすすめることで、人口減少や地域づくりに大きな効果があるものと考えております。

■ 当局

私からは文化の維持・継承に関してですが、伝統行事の維持や保存という観点では、佐藤委員がご指摘のとおり、コミュニティや集落なり地域があっての行事ですので、我々が感じているのは比較的都市部の地域だけではなくて、昔ながらの地域のおいても人間関係が希薄になっていると感じます。地域のコミュニケーションが少なくなっているということを感じています。このような行事は一回やめてしまうと再開することは大変難しいものになってしまいます。コロナ禍の時にそのようなことが発生したわけですが、まずは今の状態を維持することが重要です。このような行事を通じてコミュニティが元気になっていただけるよう支援をしていきます。どうすれば行事を続けていけるか一緒に伴走しながら考えていきたいと思います。

■ 会長

ふるさと教育により、男鹿への愛着を持つ子どもが増えているということは、大変ありがたいことですし、今後も続けてほしいと思います。一方で大人世代が男鹿に愛着を持つための方策が必要ではないかと思いますが、市として考えている施策等はありますか。

■ 副市長

本日は市長が不在ですが、もし市長がいれば、男鹿への愛着という件に関しては長い時間話されると思います。市長が最近言うことは、もっと我々親世代が子どもたちに、「男鹿はいいところだから必ず帰ってこい」と小さいころから言ってくる必要があったのではないかと話しています。

■ 委員

私は県外の出身なのですが、外で暮らしたことがあるから見えてくることがあると思います。外に行くことを禁止されていると、逆に出たくなるものだと思います。親がそのような事を言うことに関しては反対です。

逆に子どもたちにどんどん世界に出ていけと言う事が大事で、一回外に出ることで、地元や故郷に対しての良さを再確認して戻ってくるという形が一番理想的な形だと思います。

■ 副市長

私もその意見に全面的に賛成です。

どっちにしても、子ども達や若者が体験したことのない世界を見たいという思いは、いつの時代でもあると思います。一旦外に出たそういう人たちが、帰って来たくなるような故郷を作っていくことが大切だと思います。そのような魅力を我々がいかに作っていくかということだと思います。

男鹿のいいところを住んでいる人が見つめ直して、しっかりと再認識してそれを子どもたちに伝えていくということだと思います。

■ 委員

1-3の「商工業の振興」に関してですが、男鹿市は他の地域と比べても企業数が足りないと感じています。法人税の税収も足りないし、例えば他のところから企業を連れてくるのは、誘致してくるのは難しいと思います。だからこそ男鹿の若者が起業しやすい環境、支援が重要だと思っています。資金的な支援というよりも、ノウハウや起業のための教育というものが重要なになってくるのではないかと思います。何をするにもお金は必要で、市としても税収を増やすためにそのような取組が必要ではないかと思います。

■ 当局

まさに委員のお話のとおりで、大きい製造業の工場を誘致するということは大変難しい事で、我々も昔からいろいろな活動をしてきましたが男鹿市ではなかなか叶わなかったという経緯もございます。最近ではスタートアップという業を起こすという取組が全国的にも増えています。「稻とアガベ」さんのように男鹿と縁もゆかりもなかったような方が、男鹿で1から0から業を起こして展開されている方もいます。最近ではそのような取組に引き付けられて、全国からその取組を見に来られる方も大勢います。新たなホテルも最近は増えていますし、見に来られた方も男鹿で一緒になにか取り組みたいと考えて帰られる方をよく目にします。そういう動きを市の取組に取り入れていく、一緒に進めていく体制を整えています。そのような取組のための支援制度はいろいろあるわけですが、一番重要なのは、そういった方が相談に来られた時に商工会と連携し親身に対応・支援していくことだと考えています。

引き続き、商工会や金融機関と連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

■ 委員

起業の支援にあたり、空き家の有効活用という視点もつなげて取り組んでもらえれば地域の課題解決につながると思うのでがんばっていただきたい。

■ 教育長

起業に関する学校での取組・教育という観点では、10年近く前からキャリア教育の一環として、起業という点においてもいろいろな角度から教えています。市内で起業された方からの講義や、企業関係者からの起業セミナーなどを実施しています。このような取組が将来的に男鹿で起業される方が増えればと思っています。

■ 委員

私のような外部の人間から見れば、男鹿はやっぱり観光であると思っています。先日東京から友人が来た時に、男鹿を案内しましたが、ナマハゲを見て、入道崎を見て、ゴジラ岩を見て、寒風山を見て、石焼き料理を食べて、大変満足して帰ってきました。この情報は首都圏の人間にもかなり広がっていると思います。これは皆さんの情報発信の努力の成果だと思いますし、地元の皆さんのおもてなしの力だと思います。同じようなことを他の分野においても積極的にやるべきだと思います。先ほどの「子育て支援の取組」について私は知らなかつたわけですが、県内でも唯一の取組等も多数やられているので、このチラシに記載されている内容を、これをもっと、県外や首都圏に発信していくべきだと感じます。現在の移住・定住対策も全国的な自治体間競争・サービス競争になっているわけですが、例えば男鹿ではこのような条件のいい空き家を提供できるし、働く場所もあるし、手厚い子育て支援もあるし、防災対策をして安全だということをパッケージにして発信していく。空き家なら空き家、子育てなら子育てと個々の情報は発信していると思いますが、一体的にパッケージにして情報発信することも重要です。観光情報は積極的に発信していると思いますが、観光情報と同じように、空き家情報も子育て情報も、しつこいくらいに情報発信することで効果が出てくると思います。これだけ自然豊かで素晴らしい環境があるのでPRしていくかなないと損です。

■ 委員

私は学生の頃、給食がありませんでした。全国には給食のない小中学校がいっぱいあると思います。それが、男鹿では無料で給食が食べられる。そのことを知らない全国の人はいっぱいいて、それを知れば大勢の人が住みたくなるのではないかと思います。もっとターゲットをしぼって情報発信していくのも効果的ではないかと思います。

■ 委員

昨日ニュースで男鹿市の2つの高校の統合の話がありました。男鹿海洋高校では地域みらい留学をやっていますが、先日島根県の先進的な取組の講演を聞いて、この地域みらい留学には大きな希望が持てると思いました。この島根県の取組は男鹿と環境や条件は似ていますが、現在地域みらい留学で大人気となり、入学希望者が殺到し、地域も元気になった事例がありました。子どもがその高校へ入学するために、家族全員で移住するというケ

ースも多いようです。

この男鹿の高校の統合を移住・定住につなげるチャンスだし、夢がある話だと思います。男鹿市の子育て日本一への取組とも連携すればさらなる効果が出るのではと感じます。私はこれからの未来の男鹿が楽しみだなど感じています。

■ 副市長

今、各委員からお話あったのは、要すれば、どんなに良い取組をいっぱいやっても外に発信して、やっているということを皆さんに知らせなければ、良さを認めてももらえないし、それが実際の成果に結びついていかないということだと思います。もったいないということで、私ももったいないと感じています。観光情報と同じように「子育てするならここ男鹿で。」というキヤッチフレーズを広めていきたい。

また、パッケージにして情報発信していくということ、単に子育てだけでなく、住環境、自然、文化、余暇の過ごし方などもまとめてアピールしていきたい。男鹿工業高等と男鹿海洋高校が統合してできる高校は、会長は、教育庁の教育次長を務めておられたので、会長が主導してきた方と言っても過言ではありませんが、工業と水産・海洋がドッキングするという全国でも珍しい、今までにないオンリーワンの高校が出来ます。ここは秋田県の子ども達はもちろんですが、全国の子ども達が集まり、次の産業を作っていく場になればと思っています。

このことが新しい知事がやろうとしている、人口の社会減を減らすことにつながるし、ターゲットは首都圏の子育て世代というところにもつながります。

必ずや知事から「例えば男鹿市では」と言われるような、真っ先に男鹿の名前が出てくるように我々もパッケージにして発信していきます。

市長も常日頃「男鹿はいいことをいっぱいやっているが、情報発信が下手で、みんなに知れ渡っていない、もったいない」と話されているので、今後は情報発信を強化していきます。

■ 会長

新知事はマーケティングの視点を取り入れた取組と話されているが、「誰に」「なにを」「どのように」というところがポイントになる。情報発信していく際もこのポイントが大切だと感じます。

4 その他

事務局より、再度日程等を説明（省略）

5 閉会 17:05